

今後の生涯学習振興施策 及びとっとり県民カレッジのあり方（答申）概要

I 鳥取県のこれまでの生涯学習振興施策の現状と課題

「個人的生活の充実」（自己実現、生きがいつくり）に関する役割は一定程度果たしてきた。

一方、「社会的生活の充実」（学んだ成果を地域社会に活かす）のための取組の遅れ。

⇒学びの成果を地域の活性化につなげる必要性

1 学びの場の提供における現状と課題

成果

鳥取県における生涯学習振興施策の中核といえる県民カレッジ（H7に開設）の運営

- ・入学者累計7,800名を超える
- ・幸福度ランキングでの評価（民間調査機関）社会教育学級数全国1位、高齢者ボランティア活動者比率全国2位 など

⇒生涯学習社会の基盤づくりが進んだ

課題

- ・主催講座「未来をひらく鳥取学」に対する認知度の低さ、参加者の高齢化・固定化
- ・学びの成果を活かす仕組みの弱さ（参加目的の大半は「生きがいつくり」）
- ・市町村等、他の学習機関講座の充実による日程重複、受講者の奪い合い

2 情報発信・提供における現状と課題

県はこれまで、「とっとり県民学習ネット」、情報誌「生涯学習とっとり」（隔月発行）により情報発信・提供をしてきた。

課題

- ・一部の固定層にしか受信されていない現状
- ・県民の学ぶ意欲の喚起への取組不足（過去一年間で学習講座に参加したことのない層が多数存在）
- ・県民目線での講座内容、形態の再考の必要性

3 社会が求める生涯学習への対応に関する現状と課題

課題

- ・趣味、教養的な講座開催への偏り
- ・生涯学習の理念や意義を浸透させる取組が不十分
- ・県立生涯学習センター（S54年設置、H18～指定管理者制度導入）の役割

Ⅱ 鳥取県が目指す生涯学習社会

人口減、高齢化等の課題はあるが、鳥取県の「強み」を活かすことでそれらを克服し、地域の活性化、発展が可能。

今後の鳥取県での生涯学習

- 自己実現、生きがいづくり（これまでの生涯学習） に加え
- 学習の成果を地域づくりに活かす
 - ・学習を通して地域の課題を発見する力を身につける
 - ・新たな知識や情報を活用して課題を解決する力を身につける
- 学ぶことにより地域とのつながりをもつ
 - ・学習の積み重ねから人と人との触れ合いを広げる



鳥取県が生涯学習を通して目指す姿

- ・県民が学習を通じて、地域の様々な課題に対応する力をつける
 - ・多様な担い手が活躍することができる社会を構築する
- 学びから行動へ、行動から学びへの循環——

Ⅲ 今後の生涯学習振興施策の方向性

県は、より住民に身近な学習機関（例：市町村等）への支援に取組を発展させるべき。

生涯学習施策の具体的方向性

- (1) 新たな学びの場づくり、学びの成果を地域社会へ還元する仕組みづくり
- (2) 生涯学習を支える人づくり
- (3) 県民参画を促すための情報発信・提供

(1) 新たな学びの場づくり、学びの成果を地域社会へ還元する仕組みづくり

○「県民カレッジ」のあり方の再検討

⇒ 県民ニーズや社会的要請を反映した新たな仕組みへの転換

- ・「鳥取学」・・・講演会形式から参加型、課題解決型へ
- ・学習記録（個人情報）の管理方法、奨励のあり方の見直し

○学びが地域で活かせる環境づくり

- ・地域課題に関する学習機会の提供
- ・地域におけるネットワークづくり
- ・ICTリテラシー向上に伴う対応

○平均寿命90歳時代の学び

- ・新たな学びのツール（例：Eラーニング、放送大学、MOOCなど）による学習機会の拡大
- ・ワークライフバランス、女性のキャリア形成の観点

(2) 生涯学習を支える人づくり

ア 地域リーダーの育成

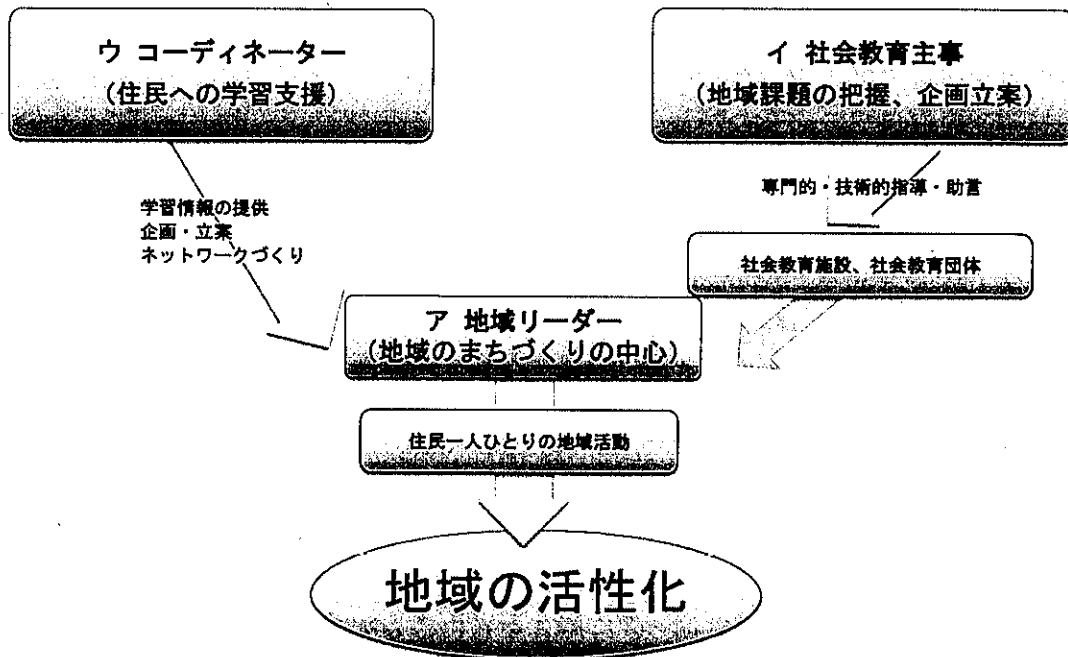
⇒地域づくり、地域活性化の中心的役割を果たす

イ 社会教育主事の活用

⇒地域課題を把握し、企画立案、コーディネートする

ウ コーディネーターの育成

⇒関係機関とのネットワークづくり、相談機能を果たす



(3) 県民参画を促すための情報発信・提供

- ・ 県民ニーズに応じた魅力的な講座の設定
- ・ 情報発信力の向上
- ・ 関係機関と連携した幅広い分野の情報発信
- ・ 学びの成果を活かす場の情報
- ・ 成功事例等県内外の取組事例の提供

生涯学習振興施策における県の役割

○県・・・各機関と連携を図り、施策を展開

- ・ 人材育成
- ・ 情報発信
- ・ 広域的な課題を学ぶ場の提供
- ・ 学びの成果を地域に還元する仕組みの構築

○生涯学習センター・・・生涯学習の中核機関

- ・ 県民ニーズを反映した学習機会、情報の提供

市町村に期待する役割

- 市町村・・・住民に最も身近な機関として住民の地域づくり活動を支援
 - ・学習活動をけん引する人材の養成、支援
 - ・幅広い世代の住民が参加できる仕組みづくり
 - ・地域課題を学ぶ機会の提供

その他各推進主体に期待する役割

- 社会教育施設等・・・住民の生涯学習活動の拠点施設
 - ・地域課題を学ぶ機会の提供
 - ・学習相談、学習情報の提供
 - ・地域活動のコーディネート
- 学校等・・・子どもたちの生涯学習に対する姿勢、態度を育成
 - ・子どもたちのボランティア精神、地域への愛着、地域貢献意識の醸成
 - ・地域人材の活用
- 大学等高等教育機関・・・地（知）の拠点としての役割
 - ・人材養成
 - ・地域課題への取組
 - ・専門的指導者の派遣
 - ・地域づくり活動への学生の参加
- 民間教育事業者・・・多様なニーズに応える特色ある学習機会の提供
 - ・専門的指導者による高水準の学習機会の提供
- 企業・・・社会的責任（CSR）としての社会貢献
 - ・施設・設備の開放
 - ・専門的指導者の派遣
 - ・従業員の生涯学習への支援
- NPO、ボランティア団体・・・それぞれの目的に応じた多様な地域課題への取組
 - ・地域活動を行うリーダー的人材の養成講座、地域課題を学ぶ講座の開催
 - ・専門的指導者の派遣
 - ・活動情報の積極的発信
 - ・中間支援組織「(公財) とっとり県民活動活性化センター」との連携・協力
- 地域団体・・・住民と地域社会をつなぐ窓口
 - ・住民の地域社会への参加を促進
 - ・幅広い世代が参加できる行事の開催
 - ・地域人材の積極的活用
- 県民・・・生涯学習活動の主体
 - ・地域活動への積極的な参加
 - ・仲間づくり、ネットワークづくり

今後の鳥取県の生涯学習

<諮問事項>

- ・生涯学習振興における行政（県）の役割
- ・とっとり県民カレッジの方向性

鳥取県での生涯学習

- 自己実現、生きがいづくりに加え、新たに
- 学習成果の地域社会への還元
- 地域とのつながりを構築を重視

鳥取県が生涯学習を通して目指す姿

- 多様な担い手が活躍することのできる社会を構築する
 - 県民が学習を通じて、地域の様々な課題に対応する
- ⇒**学びから行動、行動から学びへの循環**

以下の施策をとおり、それぞれの地域の課題の解決を支援

生涯学習を支える人づくり

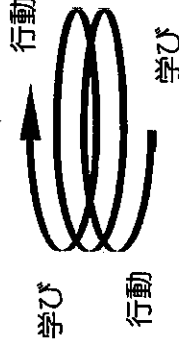
- ・地域リーダーの育成
- ・社会教育主事の活用
- ・ユース・タレントの育成

県民参画を促すための 情報発信・提供

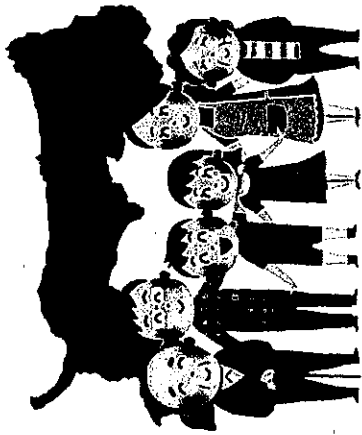
- ・住民ニーズ・社会的要請を反映した学習機会の提供
- ・各主体との連携による幅広い分野の情報提供
- ・情報発信力の向上
(学びの成果を活かす場、事例の提供)

新たな学びの場づくり、 学びを活かす仕組みづくり

- ・とっとり県民カレッジの見直し
(市町村、NPO、高等教育機関等、関係機関との連携)
(県民ニーズに応じた講座設定(課題解決型、参加型))
(学習記録管理の見直し)
- ・学びが地域で活かせる環境づくり
- ・平均寿命90歳時代を迎える環境整備(新たな学びのツール(MOOC等)の活用等)



魅力ある ふるさと とつくりをつくらせていくために



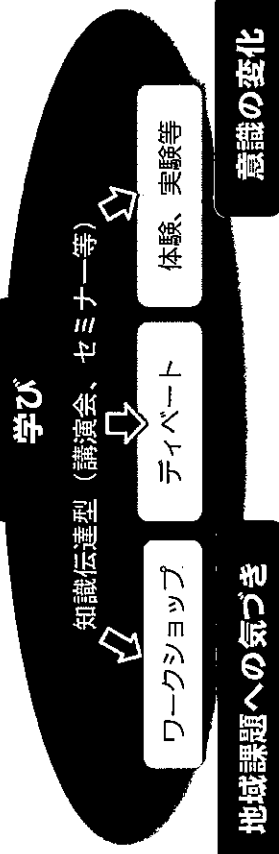
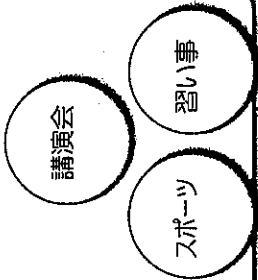
それぞれの地域には様々な課題があります。

- ・地域活動への参加者が減少し、地域行事の開催が困難
- ・地縁関係が希薄化し、地域の見守り、支え合い機能が低下
- ・地域の防災力が低下

豊かな人生を送るために
(自己実現、生きがいづくり)
学びの目的は一人ひとり違います。

- ・生きがいづくり
- ・健康、体力維持、介護予防
- ・仕事上の能力向上
- ・文化、芸術に親しむ

学びと自己実現



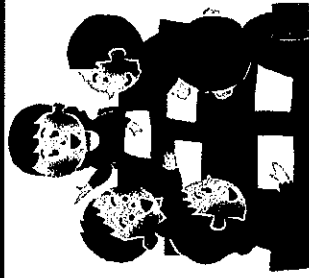
地域課題への気づき 学びと地域活動・社会参加活動のつながり

地域とつながるために

地域の活動に参加してみよう。地域にはいろいろな学習グループ、団体があります。いろいろな人との関わりが、地縁関係の希薄化、地域の防災体制の低下を防ぎます。



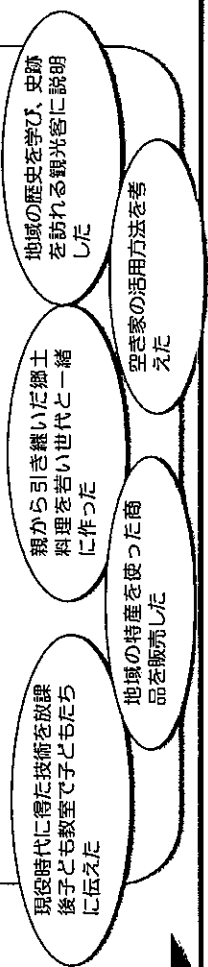
「学び」は知識や技術を得るだけのものではありません。何か気づいたり、これまでと意識や行動が変化したり、周りの人々のことを理解する、アイデアを出すことも「学び」です。これらも含めた「学び」を繰り返して、地域の発展につなげていくことも大切です。



自分の住む地域を良くするために

(学習の成果を地域づくりに活かす)

地域で生活する中で、こうだったらいいなと思うことはありませんか。そのために行動することも大切です。



学びを通じた地域の発展

生涯学習振興施策における県における役割、各主体に期待される役割

